

膚に作用します。右側優勢レメディです。

### CLINICAL APPLICATIONS

臨床では、消化器系疾患、とくに肝臓胆嚢疾患に適用されます。

#### ■消化器系

- ・肝炎：肝臓周辺に鈍重感と圧痛を感じます。この感覚は、右下に寝ると楽に感じます。赤くなった舌乳頭が、黄色い舌の上で目立つようになります。
- ・胆嚢炎
- ・大腸炎、下痢：腐ったような悪臭を伴い、肛門がヒリヒリします。
- ・消化不良：脂っこい食物や脂肉、チーズを食べると悪化します。吐き気や嘔吐を伴って、胃の中に重い石があるような感じがします。酸っぱいものを食べ

ると、楽になります。

#### ■神経系

- ・頭痛、片頭痛：胆肝疾患と関連して起こります。前頭部の頭痛で、空腹感と頭が拡大するような感覚を伴います。消化管の動きに合わせて改善します。

#### ■呼吸器系

- ・喘息：肝臓や消化管の疾患の後に起こります。胃腸や肝臓胆嚢の疾患が良くなると、呼吸が苦しくなってきます。仰向けに寝ると、呼吸が苦しくなります。

### MODALITY

- ▶ 右下に寝ること、酸味のあるものを食べることなど
- ◀ 左下に寝ること

## Pulsatilla 野生のアネモネ [誰かといっしょに居たい]

*Pulsatilla vulgaris* Mill

*Anemone pulsatilla* Stoerch, *Anemone pratensis*, *Pulsatilla pratensis* Mill, *Pulsatilla nigricans* L.

### BACK GROUND

*Pulsatilla*（野生のアネモネ）は、*Aconite*, *Cimicifuga*, *Helleborus*, *Hydrastis*, *Paeonia*, *Staphysagria* などと同様に、キンボウゲ科オキナグサ属の多年生植物で、もともとはスカンジナビア半島、デンマーク、ドイツ、ロシアと涼しい地方が原産でしたが、今は北半球を中心に広く分布しています。

一般名はsmall pasqueflower, meadow anemone といいます。この名は、花が復活祭の時期（古語でPaschという）に咲くことに由来します。日本ではアネモネ、セイヨウオキナグサという名が一般的です。オキナグサの名は全身が白い軟らかい毛に覆われていることと、長く伸びた種子の毛が老人の白髪に似ているので、その名が付けられたと言われています。

花は3月から5月にかけて咲き、濃い紫色の花弁をもち、きれいな黄色の雌しべをもっています。ときに、9月に再び花が咲くこともあります。そのときも群生して咲きます。この花は古くは紀元1世紀のギリシアで、眼の治療に使用された記録があり、18世紀にはヨーロッパで、白内障や潰瘍などの治療に用いられた記録があります。

ローマ神話では、美と愛の女神ビーナスが流した涙

から、アネモネが生まれたと伝えられています。またギリシア神話では、女神フローラの嫉妬によってアネモネの花にされてしまい、愛するゼピュロスに見捨てられたといえます。アネモネの花の蕾がうなだれているのは、そのせいだと言われています。そのため感情的で情愛深く、涙もろい例のレメディとして非常によ



(A)

く使われます。そして見捨てられたという感情に対して、非常に有用なレメディになります。

また、アネモネはwind flowerとも呼ばれ（anemosは、ギリシア語で風）、風に吹かれるまま、揺れ動きながら成長していきます。強い風によってひどく曲げられても、茎の芯は強く柔軟性があるので、折れることはありません。このためPulsatillaの人は、見た目は可憐で傷つきやすそうですが、非常に柔軟性があり芯は強いです。その反面、風に吹かれて揺れるように、優柔不断でもあります。この性格から、さまざまなものに影響されやすい面をもっています。身体症状もユラユラと変化することがあります。

必ず群生して生育し、いっせいに花を咲かせます。これもレメディの特徴どおり、人に抱きしめられているのが好きで、また人に依存しやすいという特徴があります。Pulsatillaの子供は何かあって泣いても、抱きしめられると安心します。

アネモネは雨の少ない白亜土壌で生育しますが、Pulsatillaタイプの人もあまり水を欲しがりません。アネモネは涼しく新鮮な空気を好みますが、これもそのままだPulsatillaの特徴になっています。

この植物は移植を嫌いますが、このタイプも引越しを嫌います。花の色は濃い紫色ですが、それと同じ色の静脈うっ血に対する、効果的なレメディでもあります。

メディカルハーブとしてのこの植物は、精神を安定させ、活力を与えるために精神的な消耗に使われていました。出産前後の強壮剤として、心の状態の手助けにも使用されていました。また、生殖器関連の炎症や、痛みを和らげる作用もあります。感染症や呼吸器消化器系のカタル性炎症にも使われています。これらの有効成分の一部は、下記に示してあります。

## MATERIAL

根を含む植物全体

## FIRST PROVING

ハーネマン（『Materia Medica Pura』第2巻、1805）。このレメディのマザーティンクチャーには、配糖体であるラナンクリンが含まれており、ラナンクリンは、酵素加水分解されて抗菌作用などがあるプロトアネモニンに変化します。それからアネモニンに変わります。このアネモニンは、鎮痙作用をもち、咳を鎮めたり、消化管の痙攣や尿路系の痛みを抑えます。ほかにも、神経痛や片頭痛を抑えたり、カタル性の炎症を抑え、月経を促進させたり、精神を安定させる作用などが証明されています。

## MIND

Pulsatillaタイプの特徴は、感情的で情愛深くて涙もろく、人に依存しやすく、抱きしめられるのが好きです。愛する人、安心できる人に抱きしめられていると、心が和らぎます。1人になることを怖れ、相手にいつもいっしょに居て欲しいので、相手を喜ばせるためには、どんなことでもします。それが叶わないと、シクシクとよく泣きます。一時的に強い嫉妬心を示すことがあります。こういった傾向から、何か1つのことを信じると、頑なにそれを守り通そうとします。それが進行すると固定観念が強くなります。

基本的に優しくして順応性がありますが、優柔不断でもあり、気分が変わりやすい面をもっています。シクシク泣いていたかと思うと、急にイライラするようなこともあります。このイライラは、Pulsatillaタイプには似合わないような状態ですが、根底の優しさは残っています。

そして、デリケートで恥ずかしがり屋なので、知らない人にはやや人見知りをすることがあります。やや臆病な面もありますが、芯は強くしっかりとしています。涼しく新鮮な空気を好みます。

このレメディ体質は女性、子供に多いようです。男の子の場合には、たいてい6～10歳までに、ほかの体質が加わってしまいます。

寝るときにうつ伏せに寝たり、仰向けで両手を頭の上に上げるポーズで寝ます。足に熱がいくので、布団から足先をはみ出す傾向があります。引越しなどの環境の変化に神経質です。

食べ物は、甘い物やアイスクリームのような冷たい物、乳製品が好きですが、脂っこい物、スパイシーな物は嫌いです。バターは大好きか大嫌いかのどちらかになります。季節の旬の食べ物も好きです。喉は渴きません。とくに発熱しているときには水分をあまり摂りません。

## AFFINITY

Pulsatillaの影響が強い部分は、精神、静脈、粘膜（とくに舌、胃、腸、女性生殖器、泌尿器など）、呼吸器系、女性ホルモン関連で、右側が優勢です。

## CLINICAL APPLICATIONS

体質が合っていれば、非常に多くの疾患に対して使われます。以下は、典型的に付随する一般的な症状です。

- ・分泌物が緑黄色のとき
- ・誰かそばに居ると症状が和らぐ。
- ・痛みや病気が変化する（例：痛い部位が変わる関節



炎など)。

- ・体質が合えば、あらゆる症状に。

#### ■呼吸器疾患

- ・急性/慢性鼻感冒：とくに味覚や嗅覚が鈍くなる傾向があります。鼻は乾いて、夜になるとつまります。朝から日中にかけては鼻汁が出ます。暖かい部屋で症状は悪化し、涼しい外気で改善します。
- ・花粉症、アレルギー性鼻炎、上部気道感染症
- ・喘息
- ・再発性鼻咽頭炎
- ・再発性気管支炎、カタル性気管支炎
- ・呼吸困難

#### ■消化器系疾患

- ・消化不良、脂っこい食事やケーキ、アイスクリームなどの食後の胃の不調（それでもアイスクリームは好き）。喉が乾きません。
- ・便秘や下痢、おならによる腹部の疝痛など

#### ■泌尿生殖器系：女性生殖器系のほとんどの諸症状に對して使用されます。

- ・生理中の不調、生理不順、黒色がかった生理血、帯下
- ・月経前症候群
- ・月経困難症
- ・無月経
- ・不正子宮出血
- ・子宮内膜症
- ・子宮脱
- ・悪阻
- ・乳漏症、乳腺炎、乳房線維嚢胞病
- ・膀胱炎：排尿の最後に痛みがあります。排尿を途中で止めようとする悪化します。
- ・腎盂腎炎
- ・尿失禁：妊娠中に起こりやすくなります。発咳のときにも起こります。
- ・前立腺肥大、精巢炎

#### ■静脈

- ・静脈のうつ血性病変
- ・静脈瘤（Hamamelis etc.）、静脈瘤性潰瘍、静脈炎による後遺症
- ・凍瘡（Agaricus, Tuberculinum）

#### ■神経系

- ・敏感に落ち込んでしまう状態、うつ病
- ・頭痛、片頭痛：生理の終わり頃によく起こります。熱、太陽、ストレスなどで悪化します。涼しい環境、冷湿布、患部の圧迫で楽になります。吐き気を伴うことがあります。
- ・めまい：上を見上げると悪化します。生理中に悪化

し、横になると改善します。

- ・顔面神経痛
- ・歯痛：冷たいと楽です。熱と温かい食事で痛みが悪化します。
- ・背中の痛み：背中に冷たい水を注ぐような感覚を感じることがあります。
- ・関節炎：痛みのある場所が変わります。初めの動きは痛みがありますが、動き出すと楽になります。痛みは温めると悪化し、冷湿布で改善します。
- ・痴呆

#### ■感覚器

- ・結膜炎、眼瞼炎：緑黄色の目やにが出ます。眼瞼がかゆく、涙が出てきます。眼が痛いことがあります。症状は冷湿布で改善します。
- ・涙管閉塞：とくに若齢の場合。
- ・上瞼の麦粒腫
- ・化膿性外耳炎、中耳炎：耳から分泌物が出ることがあります。耳の痛みは、夜や温まると悪化します。
- ・感冒後の難聴

#### ■その他

- ・皮膚病：麻疹による皮膚病変、暖めると悪化する凍傷のかゆみ、じん麻疹、乾癬、湿疹
- ・感染症：流行性耳下腺炎（おたふく風邪）、麻疹、水疱瘡
- ・手術後：見捨てられた感情をもつとき
- ・全身性紅斑性狼瘡
- ・結合組織病
- ・類肉腫症：治療の補助に使用します。肺のほかリンパ節、皮膚、肝臓、眼、指骨、耳下腺などにも肉芽腫病変が現れます。

#### MODALITY

- ▶ 涼しい新鮮な空気、動き続けること、同情や慰め
- ◀ 暑さ、寝室の暑さ、休息、動き始め、夜、月経前と月経中、思春期、妊娠中など

#### RELATIONS

- ・Calcarea carbonicaタイプからPulsatillaへ移行することがあります。
- ・Pulsatillaは中年以降にGraphitesやSepiaが必要になることがあります。
- ・Silicaは、しばしばPulsatillaの慢性型と言われています。
- ・Antidotesには、Chamomilla, Coffea, Ignatia, Nux vomicaなどがあります。
- ・またPulsatillaは、Sulphurのオーバーリアクションに対するantidotesにも使われます。

・ Compatible : Arsenicum album, Bryonia, Belladonna, Ignatia, Kali bichromicum, Lycopodium, Nux vomica, Phosphorus, Rhus toxicodendron,

Sepia, Sulphur

・ Complementary : Allium cepa, Coffea, Chamomilla, Nux-vomica, Penthorum, Silica

## Pyrogenium 腐った肉 [あらゆるタイプの細菌感染、化膿、敗血症]

### MATERIAL

このレメディは、1880年にJohn Drysdaleが、牛肉片を水に浸して、日の当たる場所に3週間放置したものを原料にしてつくったのが最初です（Drysdaleは、これをPyrexinと呼んでいました。ほかにSepsinとも呼ばれていました）。現在では、牛肉、豚肉、人の胎盤が使われています。

### FIRST PROVING

Drysdale, Wybornら

### MIND

Pyrogeniumタイプは、通常、食欲はなく、熱い飲物で改善します。非常に喉が渇くので、冷たい飲物を少量飲むとすぐに吐いてしまいます。舌は赤くつやつやしています。敗血症のために心臓が弱く、少しの運動でもマラソンをしたように疲れてしまいます（落ち着きのなさは動くとき改善します）。

動悸も動くことで悪化します。眼球の動きも変な感じがします（Eupatorium）。寝ているベッドが硬く感じるようになります（Baptisia, Arnica, Rhus toxicodendron）。不安感で落ち着きがなくなります。夜になると頭が冴えてくるので、話をしたり、物書きができるようになります。

脈拍と体温の相関の不一致があり、脈が速いのに体温はそれほどでもなかったり、逆に脈は遅いのに体温が高いという例が多く見られます。

### CLINICAL APPLICATIONS

- ・ あらゆるタイプの急性/慢性の細菌感染、化膿、敗血症に使われます。
- ・ 腐った物を食べたときにも使われます。
- ・ 出産時の感染や胎盤停滞、生理中の発熱にも適用されます。
- ・ 産褥熱：分娩24時間後から11日目までに起こりま

す。

- ・ 化膿、膿瘍、細菌性疾患、中毒以来、慢性的に体調が悪いとき。
- ・ 体から腐肉の臭いがしたり、分泌物や排泄物に腐った臭いがするとき。
- ・ 付随する症状としては、発熱（脚の痛みを初期に感じます）、痛み、落ち着きのなさ、下痢などがあります。
- ・ 膿瘍、敗血症、潰瘍、腹膜炎、歯肉炎、発熱、化膿、皮膚の潰瘍など
- ・ 高熱

しばしばHepar sulphur, Mercurius, Silicaなど、他のレメディとともに処方されます。

### MODALITY

- ▶ 暖めること、入浴、飲物を飲む、患部を圧迫するなど
- ◀ 寒い、湿った気候、目を動かすこと

### RELATIONS

- ・ Complementary : Arsenicum album, Baptisia, Bryonia

● 他のレメディとの併用投与例：Hepar sulphurとの併用例

〈皮膚膿瘍のケース〉

■ 化膿の初期段階の処方例：化膿を抑えていきます。Pyrogenium30cとHepar sulphur30cをそれぞれ1～2時間の間隔を空けて1日2、3回投与します。

■ 膿が溜まり始めた段階の処方例：中程度のポテンシーを使用する方法や連日ポテンシーを上げていく方法など、化膿病巣の状態に応じて使い分けをしていきます。正確な処方には、化膿のステージと病巣の的確な判断が必要になります。

膿瘍の初期段階や皮膚の表層の化膿の場合の例では  
1回目：中ポテンシーで投与します。Pyrogenium30cとHepar sulphur12cを1～2時間の間隔を空